

第2回 IBMS Herbert Fleisch Workshop に参加して…

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面矯正学分野 4年 幸田直己

今回の IBMS Herbert Fleisch Workshop は「Advancing Today's Research, Fostering Tomorrow's Leaders」という副題のもと、ベルギーはブルージュで開催されました。首都ブリュッセルから北西に電車で1時間ほど離れたブルージュは別名「北のベネチア」とも称される、運河が張り巡らされた中世ヨーロッパを思わせる美しい町です。またブルージュ地区全体が世界遺産に登録されており、チョコレート・ポピンレース・鐘楼（カリヨン）で有名な町でした。学会会場はブルージュの中心、世界遺産「マルクト広場と鐘楼塔」から歩いて10分ほどに位置するホテルで行われました。

1日目は、ミズーリ大学 Lynda Bonewald 先生による骨細胞の多機能性に関する基調講演があり、ポスタービューイングも催されました。また夜には全員参加の食事が開催されブルージュの地ビールと美味しい食事を頂きました。私はこの学会に独りで参加しましたが、この食事会のおかげで若手研究者を始め、ベテラン研究者の先生方とも楽しく交流することができました。

2日目はワシントン大学 Fanxin Long 先生の骨関連細胞における代謝エネルギーに関する講演ののち、全演題から抜粋した数演題に対して口演発表が行われました。ポスタービューイング&ディスカッションでは、昨日に交流した先生方と研究に関するディスカッションをさせて頂き、充実した時を過ごしました。私は歯に関する遺伝子の研究に現在従事しておりますが、本学会の参加者には研究のみを行う先生以外にも整形外科の医師、歯科医師等、多彩な経歴を持つ先生方がいらっしゃいました。ポスターは76演題あり、数演題程度は歯や歯槽骨に関する研究が散見され、骨粗鬆症等の整形外科関連の領域の発表は多く見受けられました。夕方には、オックスフォード大学 Claire Edwards 先生によるガン誘発性の骨疾患における微細環境の新規標的分子と重要性に関する基調講演を拝聴しました。初心者にもわかりやすい丁寧な英語で、「脂肪性の微細環境が骨髄腫細胞と共存することでコレステロールや IGF が作用し多発性骨髄腫が発症する」と説明されておられました。また同日、市庁舎で歓迎レセプションがありブルージュ市長から直々に歓迎の挨拶をいただきました。

3日目は私が初日の食事会で知り合いになったメルボルンの聖ビンセント医学研究所の Natalie Sims 先生の骨質コントロールと骨細胞の機能に関する講演を、また徳島大学の福本誠二先生の腎臓と骨の相互作用に関する講演を拝聴しました。さらに、少人数に分かれて興味のあるテーマに関して討論する機会にも恵まれました。私は「最新の骨研究と実験動物」の部門に参加し、「マウスで骨の研究をする場合何週齢がベストか、性差はどうとらえるか、バッククロスの問題、計測手技の問題、n 数はどうするか」等の知見を増やすことができました。閉式の辞の後は希望者による市内散策ツアーが催されました。ほとんどのメンバーは参加し、ガイドさんと共に楽しく小雨の中のブルージュを満喫しました。

本勉強会は昼食・夕食と食事がほぼ全て含まれているため、参加者同士のコミュニケーションが自然にとれることで、皆とても仲良く素敵な雰囲気での学習を行うことができました。また同時に、様々な国の多彩な領域の先生方から自分の研究に関してご意見を頂くことで、今後の研究に

関する広い視野および新たな展望を持つことができました。このような素敵な勉強会に参加するきっかけを与えてくださり、さらに **Travel award** まで頂きまして日本骨代謝学会、会長ならびに事務局のスタッフ様に心より感謝申し上げます。

最後に、3月22日の首都ブリュッセルのテロで亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害に遭われた多くの方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。ベルギーという素敵な国が、早く安全な場所に戻ることを祈る限りです。